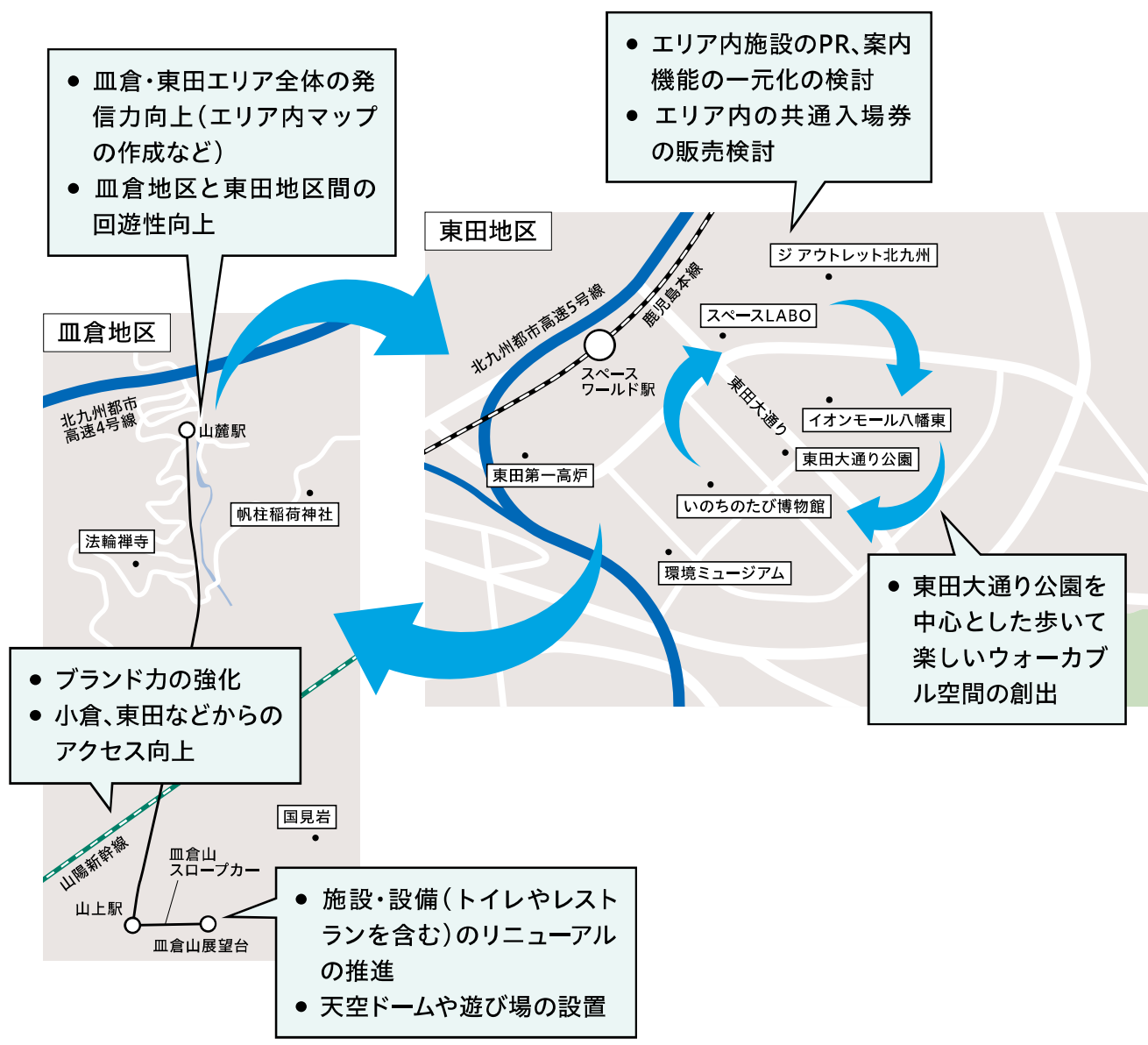


(3) 取組のイメージ



4 門司港レトロ・和布刈地区

九州最北端の港町リゾート『門司港レトロ』

(1) 地域の強み

ア 門司港レトロ・和布刈のまちについて

門司港レトロ地区は、明治時代後半から欧州航路の寄港地や、満州などへの貿易船の着港により日本三大港の一つとして数えられ、重要な国際貿易の拠点となりました。また、瀬戸内海国立公園内に位置する和布刈地区は、関門海峡のダイナミックな潮の流れや、本州から架かる関門橋を一望でき、多くの人の憩いの場となっています。

現在では、関門海峡エリアが「関門“ノスタルジック”海峡～時の停車場、近代化の記憶～」として日本遺産に認定されるなど、門司の風景や観光資源は全国的に認められています。

当時の門司の繁栄を偲ばせる歴史的建造物の「旧門司三井倶楽部」、「旧大阪商船」、「旧門司税関」などが立ち並ぶJR門司港駅を中心にしたレトロなまちなみや、関門海峡を一望できる和布刈地区からの景観は、市内随一の観光スポットになっています。

イ まちの魅力

- 美しく雄大な関門海峡の景観
- 旧門司三井倶楽部や三宜楼など歴史的建造物が多く現存する大正ロマンあふれる街並み
- 日本夜景遺産に登録されている和布刈公園第二展望台や門司港レトロ展望室
- 大自然と豊富な歴史遺産のある和布刈公園
- 世界的にも珍しい歩行者専用の「関門トンネル人道」
- 豪華クルーズ船など国内外の船舶が寄港し、多種多様な人々が交流
- 出光美術館や門司港美術工芸研究所などアートや文化施設が集積
- 若者に人気がある清滝地区の路地裏探索

ウ アクセスなど

- 国指定重要文化財「門司港駅」から徒歩圏内
- 対岸の下関市までアクセスの手段が多様（連絡船、関門国道トンネル、関門橋、鉄道）
- 門司港レトロから和布刈公園まで観光列車「潮風号」が運行



和布刈公園第二展望台からの夜景



「MOJIKO」モニュメント



関門トンネル人道

(2) 課題と主な取組

門司港レトロ・和布刈地区には、関門海峡や歴史的建造物の街並みなどの魅力を求めて現在でも多くの観光客が訪れています。これからもより多くの観光客を魅了し続け、ファン・リピーターを作るためにも、新たな魅力の発掘や観光資源の磨き上げ、快適な滞在環境の整備などに取り組み、この地区自体の魅力向上を図ることが求められます。

ア 門司港の特色を活かしたブランディングの構築

【推進していく主な取組】

- 新たなキャッチフレーズ“九州最北端の港町リゾート『門司港レトロ』”の打ち出し
- “港町リゾート”に似合う高級感のあるブランドデザイン(統一感のある案内標識、イベントのあり方)

イ 魅力的な地元資源の発掘・磨き上げ

【推進していく主な取組】

- リゾートの雰囲気醸成するまちづくり(トロッコ列車沿線の植栽など)
- 集客力のあるパブリックアートなどの整備

ウ 属性に応じた戦略的なプロモーションの強化

【推進していく主な取組】

- 観光DXを活用したプロモーション戦略(IoTセンサー活用による行動実態データの把握など)
- 清滝地区でアーティストが集い・住まう取り組みの促進

エ 滞在時間の長時間化

【推進していく主な取組】

- 門司港レトロ～和布刈間の水上交通の可能性調査の実施
- 休憩施設の新設による周遊導線の拡張
- 関門連携による新たな周遊ルートやイベントの開発

オ 多様なニーズに対応できる人材の育成・登用

【推進していく主な取組】

- 民間企業、DMOなどと行政との人事交流
- 来訪者のニーズに一貫して対応できる地域ガイドの育成

カ インバウンドの取り込み

【推進していく主な取組】

- FIT(個人旅行者)の誘致強化
- 複数の地域資源の掛け合わせによる旅行商品の開発



海峡プラザ



北九州銀行レトロライン潮風号

(3) 取組のイメージ

